

今月は、4月に就任しました2人の副院長から、ご挨拶させていただきます。また、診療科名が新しくなる「糖尿病・内分泌内科」の紹介をさせていただきます。

平素より、市立池田病院との連携にご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございます。

持続する新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、非常に厳しい状況が続く中、当院においても、病棟の一部閉鎖・救急受け入れの制限などの対応を取らねばならないこと、ご迷惑とご心配をおかけしております。

令和4年度、新たな副院長を迎え、地域医療支援病院として、より一層、頑張っまいりますので、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

病院長 尾下 正秀

副院長就任のご挨拶



副院長 尾崎 由和

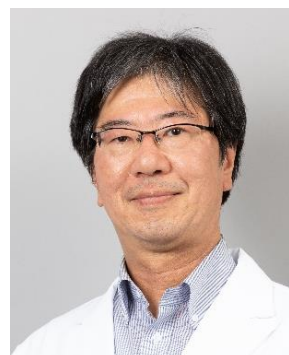
このたび副院長を拝命しました、小児科の尾崎です。1985年に大阪大学を卒業し、そのまま阪大小児科で研修をしました。その後、大手前病院、ベルランド総合病院、大阪大学医学部附属病院、国立病院機構大阪医療センターを経て、2012年に市立池田病院に主任部長として着任しました。専門は栄養や内分泌で、子どもの特徴である「体がおおきくなること」に興味を持って診療をしています。

尾下病院長とは大学の同級生で、名簿もずっと隣り合っていました。気心の知れた間柄ですので、病院長をしっかり支えて、病院をもり立てていきたいと考えています。皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。



本年4月より副院長を拝命いたしました森山です。当院には、2001年に着任し、今年で22年目となります。これまで血液内科医として、悪性リンパ腫のほか、高齢化の進展に伴い、決して稀な疾患ではなくなってきた骨髄異形成症候群や多発性骨髄腫を最新の治療ポリシーのもと、全力で治療にあたってきました。また、大阪大学との連携により同種造血幹細胞移植や、免疫療法の新しい形であるCAR-T療法を受けていただいている患者さまも年々増加しております。

一方で、今後は目の前に迫るコロナの問題はもちろん、様々な課題について尾下病院長とともに横断的に取り組んでまいります。



副院長 森山 康弘

4月から診療科名が変わります

4月より、右記の診療科におきまして、標榜科名が変更となります。開業医の先生方にはご不便とご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

内分泌・代謝内科 → **糖尿病・内分泌内科**
神経内科 → **脳神経内科**

※診療申込書につきましては、従来のもも使用可能です。なくなり次第、随時変更をお願い致します。
(ホームページから出力分につきましては、新しく更新しております)



当院は地域医療の拠点病院として、今後も地域医療に貢献していく所存です。何卒宜しくお願いいたします。

糖尿病・内分泌内科

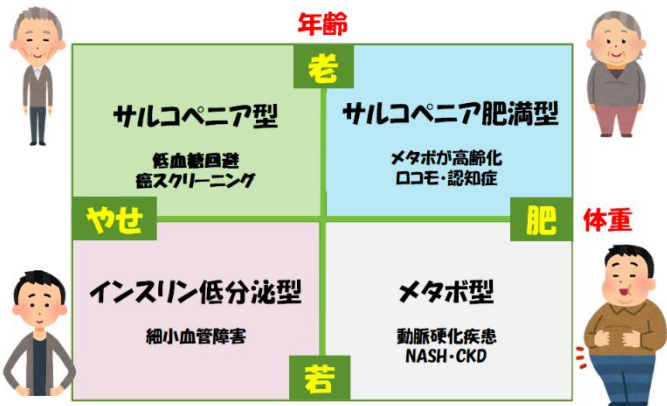


糖尿病・内分泌内科
部長 岡田 拓也

糖尿病・内分泌内科部長の岡田拓也です。今年度より標榜科名を『内分泌・代謝内科』から『糖尿病・内分泌内科』に変更いたしました。糖尿病（1型、2型）を中心に、内分泌疾患（甲状腺・副腎・下垂体・電解質異常、二次性高血圧）を引き続き診療してまいります。心・腎・肝・眼・皮膚などの合併症などでお困りの患者さまもしかるべき診療科と速やかに連携して治療にあたります。糖尿病教育入院（8日、15日）はもちろんのこと、外来でのインスリン・血糖測定・持続血糖モニターの導入にも力を入れておりますので、よろしくお願ひします。

薬物治療は大きく進化しています

近年、SGLT2阻害薬やGLP-1受容体作動薬といった新世代の薬剤が、低血糖や体重増加を起ささない血糖コントロールを可能にするだけでなく、心不全や心血管病を防ぎ腎予後を改善することが大規模臨床試験で明らかにされました。健康寿命を伸ばすという糖尿病治療の最終目標を達成するためには、これらの薬剤を上手に使うことが重要となってきています。



糖尿病患者のライフステージと病態

SGLT2阻害薬やGLP-1受容体作動薬を上手にかつ、安全に使用するためには、糖尿病患者のライフステージや病態を考慮し、サルコペニア、脱水、感染症、ケトアシドーシスといった合併症に注意が必要です。また、インスリン分泌低下型の患者さまにはインスリン治療が最善の治療であることになり、インスリン導入のタイミングが遅くならないように留意する必要があります。

インスリンポンプやCGMなど最新の治療を提供します

当科では2020年度より、1型糖尿病患者さまを対象としたインスリンポンプ外来を開設しており、インスリンポンプ治療を行っている患者さまも増加しています。また、間歇スキャン持続血糖モニタリング（isCGM、フリースタイルリブレ®）に関しては、2022年4月より、1型、2型にかかわらず1日1回でもインスリンを打っていれば保険適用となりました。簡単に装着でき、指先を何度も穿刺することなく、2週間の間スマホをかざすだけで血糖を確認できるだけでなく、1日の血糖変動をわかりやすいグラフに表示したり、TIR（タイムインレンジ）、推定HbA1cなど様々な指標を算出できます。患者さまの療養モチベーションに大きなインパクトを与えるデバイスとなりますので、イナーシア状態の患者さま是非一度ご検討ください。



インスリンポンプ



持続血糖モニター